

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0390300085 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 典人会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「後ノ入」 | | |
| 所在地 | 〒022-0007 大船渡市赤崎町字後ノ入73番地3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年10月30日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年4月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「後ノ入」では、事業所理念を「大樹を育む」とし、地域に根差し成長を続ける事業所を目指しています。ケア理念は昨年度まで「目線を合わせ、耳を傾け、思いを伝え合う」としていましたが、今年度から、「生きるを大切に」へ更新しています。この更新については、前回までのケア理念を踏襲しつつ、介護度が上がることによっておこる肉体的な衰えや、認知症の進行のなかにあっても「生きる」ことを大切にし、それぞれの希望や目標を叶えられるよう取り組んでいます。
 今年は新型コロナウイルスの影響で、外出等の活動が制限されていますが、その中でできることを探し、日々ケアにあたっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域を流れる後ノ入川の上流に位置し、この4月で10年目を迎えるグループホームである。利用者の高齢化、重度化が進んでいることから、本年度は、これまで以上に利用者一人一人の“生きる”ことに寄り添うためケア理念を「生きるを大切に」に改め、職員が利用者1対1で対応できる時間を多くつくれるよう、運営や日々の業務の見直し、改善に取り組んでおり、利用者主体の暮らしを支援する姿勢が全ての職員に見て取れる。開設直前に東日本大震災が発生し、隣接の小規模多機能ホームとともに被災者支援に当たり、地域の信頼を得た。以来、ホームでは独居高齢者への支援や認知症に対する地域理解を拡げる取り組みに力を入れ、また、運営管理を行う地域交流スペース「赤崎ホッとハウス」を中心に地域との繋がりを大切にしてきた。本年度は、コロナ禍により地域との関わりが減少する中でも、「ホッとハウス」は地域の方々の趣味活動、学童クラブと高齢者等との世代間交流等、地域交流の拠点となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 令和3年3月18日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念「大樹を育む」については、開所当時から変わらず掲げており、地域活動は年々その幅を広げている。ケア理念は今年度「生きるを大切に」へと更新し、重度化する利用者の生活を改めて考える理念とした。 | 先発の小規模多機能ホームの開設にあたり、利用者、家族、地域そしてスタッフが強い絆でホームを大きな樹に育てていく決意を込めて掲げた「大樹を育む」を、後発の当ホームでも理念としている。本年度は、利用者の高齢化や介護度の変化を踏まえ、これまでのケア理念「目線を合わせ、耳を傾け、思いを伝え合う」を「生きるを大切に」に改め、職員が利用者一人一人の“生きる”ことに寄り添うケアのあり方を考え、実践することに努めており、管理者は、職員が利用者とは1対1で話し合う時間や場面が増え、手応えを感じているとしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナウイルスの影響で、利用者と地域住民に係わる機会は減ったが、毎月開催している学童クラブと地域住民の交流会は感染予防をしながら継続している。世代間交流の拠点として機能していると思う。 | コロナ禍の中で、地域との交流は制限され、例年、地域の方々に参加してもらった敬老会も内部のみの開催となった。敷地内の地域交流スペース「ホットハウス」の使用は、緊急事態宣言中は中止したが、現在は、地域のコーラス、詩吟、お茶会、料理教室等の趣味活動に定期的に使われ、学童クラブや子ども会の活動や世代間交流の場にもなっており、管理運営を行うホームとしても、子ども達と交流し、支援を行っている。管理者は、地域の認知症講座や地元小学校5年生への認知症出前授業の講師を続けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小学校への認知症出前授業や、地域住民を対象とした認知症講座も開催し、認知症啓蒙活動に貢献していると思われる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度については新型コロナウイルスの影響で書面開催としている。書面についても出来るだけわかりやすく伝わるように努めている。 | 小規模多機能ホームと合同で開催しており、地域の様々な立場の方々が委員として参加し、バランスのいい構成になっている。本年度は運営状況の資料送付による書面会議とせざるを得なかった。来年度は時間制限を設けるなど、コロナ対策を講じながら開催したいとしている。地域交流の拠点として「ホットハウス」を管理運営していることから、地域課題の情報交換も活発に行われている。 | ホームが地域に還元出来ること、地域がホームの取り組みに支援出来ることなど、協議テーマの幅を拡げながら地域との連携や協力関係を一層充実させ、ホームが地域の介護サービスの「大樹」としてますます成長していくことを期待します。 |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議が開催できない状況であっても、感染症対策の相談等、連絡を取り合っている。 | 市担当課とは、制度運用の照会や地域の独居高齢者の情報交換、災害警戒情報の発令確認等、円滑な連携が出来ている。特に、本年度は、新型コロナウイルス感染防止の対策について、市が設定した「特別警戒期間」にあわせた家族等の面会制限の設定、解除等の協議等、相談、連絡を密に行ってきた。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会の活動を3カ月毎に開催しており、身体拘束への正しい理解を深め、利用者の尊厳を維持するよう努めている。 | 管理者、計画作成担当者、職員の代表で構成する「身体拘束廃止委員会」で、身体拘束や行動制限を行わないケア、利用者個々の安全性に留意したケア等について定期的に話し合いを行っている。また、スタッフミーティング等で、フィジカル・ドラッグ・スピーチの3拘束や緊急やむを得ない場合に拘束が認められる三要件等、基本的な事項について職員間で確認、共有を図っている。本年度、居室での転倒骨折があり、安全のため7名の方がセンサーマットを使用している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 身体拘束と合わせて虐待についても勉強会を開催し、各職員が互いのケアを振り返りながら、気を付けている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活支援事業を利用されている利用者について、その仕組みと役割について研修会の際に説明し理解している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用開始の際には丁寧に説明し、不明な点があればその問い合わせに対応している。また、利用中であっても常に対応している。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族からの指摘や要望について、可能な限り反映しているが、人員等の問題により叶えられないものについてはご家族のご協力を頂きながら行っている。 | 新型コロナウイルス感染予防のため、家族の面会はアクリル板を挟んで30分以内としているが、面会の回数は減っている。開催予定であった「家族会」も開催出来ず、電話で利用者個々の暮らし振りを伝えることが多くなっており、その際に意見や要望を聴いている。通院時の付き添いの要望があり、可能な限り対応している。コロナ禍にあつての家族の意向等について、アンケートを実施できればとしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 働きやすく、楽しく仕事ができる場所を目指しており、些細なことでも管理者に相談できる体制を整えている。 | 毎月のスタッフミーティングやカンファレンス会議で、働き方や施設の設備や環境に関する意見が出される。働き方の改善では、職員意見をもとに、ホームを挙げて法人内の有給休暇トップを目指そうという目標に取り組んでいる。法人では、人事考課に加え、一人一人が目標を設定して取り組む目標管理の手法も取り入れており、管理者は、年度2回の個人面談において、評価に加え、仕事上の課題や個人の悩みごとへの助言を行っているが、その際にも意見、提案を聴き取っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課・人材育成に力を入れており、年に数回行う面談で目標を設定し、その能力を伸ばせる様配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 例年であれば外部研修に積極的に参加させているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で内部研修を充実化させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者がいわて地域密着型サービス協会の事務局をしているため、様々な活動の際には職員を派遣し、他事業所職員との交流を図っている。 | | |

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 新規利用の際には、本人のニーズとご家族のニーズをしっかりと把握したうえでケアプランに反映させている。また、些細なことでも相談しやすいよう配慮している。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 認知症を正しく理解した上で、家族の気持ちをしっかりと考え、希望に沿ったケアができるよう配慮している。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用にあたり、家族からしっかりと聞き取りを行い、どのようなケアが必要なかを判断している。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホームの生活の中で役割を作り、一日一日をしっかりと過ごせる様配慮している。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | グループホームは入居して終わりではなく、その距離を埋めるための努力が大切なることを理解し、家族が気軽に足を運べるよう対応している。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルスの影響で制限されるが、面会については感染症予防を徹底して行っている。 | アセスメント表の「社会とのつながり」欄にホーム利用開始前の馴染みの関係を整理し、交流を支援している。「ホッとハウス」での活動に参加した後、立ち寄ってくれる地域の方々もいるが、現在は自粛してもらっている。小規模多機能ホームの利用者との交流も今年は中止している。3ヵ月ごとに髪のカットに来てくれる理容師さんとは馴染みになっている。通院先で友人や知人と顔を合わせ旧交を温めることもある。利用者にとっての馴染みの場所は、震災により景色が変わっているところが多い。 |

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者一人一人が笑って過ごせる様、職員が間に入りながらその生活を支えられるよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 別施設に移った利用者の様子を見に行ったり、その関係を継続している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一日の中でゆっくりと話す時間をなるべく作り、その思いを理解できるよう配慮している。 | 職員が利用者一人一人と向き合い、じっくり会話する時間をつくれるよう工夫しており、時には職員が次の業務予定を変更して対応する時もある。食事の後片づけや入浴の時間が1対1の対応場面になることが多い。言葉による意思表示が難しい人については、表情や反応の変化から本人の思いや意向を汲み取り理解するよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人からの聞き取りだけでなく、ご家族や地域の方々からも話を聞きながらその人の生活歴を理解するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 居心地のいい空間づくりや、役割を持つことで毎日が生き生きと過ごせるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプラン作成についてはカンファレンスを毎月開催し、多面的な視点から情報を得られるよう努力している。また、その情報を共有できるよう努めている。 | 利用者一人一人について、日々の「気づきノート」や居室担当者のモニタリングをもとに職員全員による多様な視点からのカンファレンスを毎月開催し、現状に合ったケアプランになるよう話し合っている。定期的な評価、見直しは、6ヵ月毎に家族や関係者の意見も得ながら行っている。本年度、カンファレンスの資料となるケース記録の様式を時系列に簡略化して記入出来るように見直した結果、利用者に関わる時間の捻出に繋がっている。 | 今年度、新たに定めたケア理念「生きるを大切に」の具体的実践に向け、一人一人のケアプランの内容について、これまで以上に、本人、家族、関係者と話し合う機会をつくり、暮らし方に工夫とアイデアを加味したケアプランを作成すること期待します。 |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録様式について様々工夫をしながら行っている。業務の効率化と必要情報の収集について、職員の負担にならず、利用者との会話の時間も作れるよう検討を重ねている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 毎日の暮らしの中で起こる変化にも対応できるよう、職員間で話し合いを重ねながら取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方々には様々なシーンで協力を頂いている。利用者の要望や希望についても運営推進会議でも話題にあげ、その希望に沿えるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医を変更することなく、継続して通うことができるよう配慮している。 | 殆どの利用者が利用開始前からのかかりつけ医に継続通院している。家族の同行を基本としながらも、遠方の場合、職員が同行することもある。バイタルチェック表や生活状況の資料により、かかりつけ医との連携関係を築いている。コロナ禍の今年は、薬を多めに出してもらっている。非常勤看護師から週2回バイタルチェックや皮膚疾患、乾燥肌の対策等の指導を得ている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤の看護師と相談しながら健康面でのケアに活かしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院によって認知症の進行が心配されるため、連絡を取り合いながら早期退院ができるよう配慮している。 | | |

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用開始の際に看取りについて指針を説明している。また、その時期が来た際にも丁寧に説明し、その気持ちに沿えるよう努めている。 | 重度化や看取りへの対応は、ケア理念の「生きるを大切に」による一連のケアサービスの中に明確に位置付けられている。利用開始時に、ホームとして、医療を必要としない限り最大限の支援を行うことを本人、家族に説明し、その後も、本人の状況の変化に合せ、安心と納得が得られるよう適時に家族と話し合っている。かかりつけ医や看護師との連携のもと、3年前に看取りを経験している。ケアサービス研修の中で、ターミナルケアについても学習する機会をつくっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年緊急時の対応について研修会を開催し、その時に慌てず対応できるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災だけでなく、水害や津波に備え、ホームだけでなく地域共同し防災にあたっている。 | ホームの裏側が土砂災害警戒区域(イエローゾーン)に指定されており、大雨、津波、土砂災害等の避難準備情報が発令された段階でいち早く本部(特養ひまわり)に避難することとしている。その際には、独居高齢者にも声をかけるなど、地域の自主防災組織と連携、協力し、地域ぐるみで避難対応を行うこととしており、火災避難訓練に加え、これらの避難訓練も実施している。震災後、整備された「災害備蓄庫」には、コメ100kg、防災毛布、寝具、自家発電装置、マキ等、非常用食料や災害用備品を常備している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者への声掛けについては、尊厳を忘れず不快感を与えないよう職員間で気を付けている。 | 利用者一人一人に関わる時間を大切にし、利用者の状況に合わせて声かけを行い、本人の気持ちを尊重しながら自分のペースで生活出来るよう対応している。習字、三味線、貼り絵、干し柿づくり、牡蠣の殻むきなど、得意なことを自分で選択して取り組める場面を提供し、やりがいを感じてもらえるよう支援している。法人全体で人権、接遇、プライバシー保護等の研修にも力を入れている。 | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 選択肢を持たせることを忘れず、あくまでも自分の意思決定の場を奪わないよう配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 人員不足により業務が優先される場もあるが、常に利用者の気持ちを考えながらケアにあたれるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好きな色や服を本人から聞きながら支援している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事については、法人全体で力を入れており、季節を取り入れたメニューや、釜戸でご飯を炊いて提供するなど多くの工夫を取り入れて行っている。 | 予め献立を作成することなく、前日、チラシを見ながら利用者から希望を聞き、買い出しに行く。調理には、当番の職員が交代で当たっている。「食の歳時記」等を参考に「食べ物に関するカレンダー」を作成し、季節にあった食事を提供したり、震災時に活躍した竈でご飯を炊いたりして、楽しい食事になるよう工夫している。食器洗いやテーブル拭きなど、出来ることを手伝ってもらうようにしており、味見の大役を果たしている方もいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員一人一人が利用者の健康状態を把握するため、食事量や水分摂取量は把握し、一人で摂取が難しい場合は職員から介助にて摂って頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事前の口腔体操をオリジナルで作り、楽しんでできるように工夫したり、毎食後の口腔ケアについても必ず行っている。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居時にリハビリパンツを利用されていた方を布パンツに変更したり、本人の持てる力を失わないための取り組みを続けている。 | 布パンツ2人、おむつ1人を除き、リハビリパンツにパット使用になっている。日中はトイレで用を足しているが、間に合わず、失禁する方が増えて来ており、失禁の原因分析、サインの確認等、失禁の改善に向けた支援を検討している。夜間は、声かけでトイレに立つ人が多く、ポータブルトイレを使用している方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 主治医と連携し、排便の有無や服薬管理についても健康状態を把握しながら取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 浴室に富士山の絵を職員が描いて目でも楽しんで頂けるよう工夫したり、職員とゆっくり入れるよう一人一人の時間を長くとったり工夫しながら取り組んでいる。 | 週3回午前中の中の入浴を基本にしている。家庭用の個浴より一回り大きい浴槽で富士山と桜の絵を背景に、職員と談笑したり、民謡や歌謡曲を楽しみながら、ゆっくりと入浴してもらうようにしており、着脱合わせ30分程度の入浴になっている。全介助の3人は、職員2人で対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠れない時は無理に案内せず、職員とゆっくり話せる時間として捉え、安心して休んでもらえるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬の成分や効能などを把握し、その効果についても主治医と連携している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 動けない方であっても出来ることは必ずあり、そのを探し役割として活躍していただける場を作っている。 | | |

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスの影響で今年度は積極的には活動できないが、施設内や敷地内で行えることを徐々に増やしている。また、庭を整備し外気に触れられる機会を増やしている。 | 新型コロナ感染予防のため、また、町内では震災復興道路工事が続き、一方通行などで通りにくいところがあることから、遠出は自粛している。ホームは基幹道路から奥まったところにあり、職員が敷地内に落葉樹等の樹木を植えて庭園づくりを行っており、四季を感じながら散歩、日光浴等を敷地内で楽しむことができる。春を迎え、少しでも外の空気を味わえるよう支援したいとしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在自己管理する方はいないが、以前は買い物に出かけ、好きな服を買ったりおやつを買う機会を設けていた。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 携帯電話で家族に連絡する方がおり、ゆっくりとお話できるよう配慮している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分たちが過ごしやすい場所は利用者が過ごしやすい場所に通じているため、植物を配置したり、安全のために通路を広くとったりと様々な工夫をしながら支援している。 | ホールの天井が高く、南向きの窓も多く、陽光が差し込む。職員手作りの庭園が四季を通じて利用者を和ませてくれる。ホールはバリアフリーで段差のないウッドデッキに繋がっており、野外での食事も楽しめる。茶系の床、クリーム色のクロス壁で明るい中でも落ち着いた雰囲気のある共用空間となっている。床暖、エアコンに大型の空気清浄器が設置され、適切な温湿度や空調の管理がなされている。大型テーブルを3脚繋げ、利用者はそれぞれ自分の指定席で居心地よく過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者の相性などを考慮し席順を決めたり、活動の際は全員がそろって活動できるように配置を変えるなど工夫している。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「後ノ入」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている | 持ち込みの家具や大切にしているもの、位牌な ど持ち込まれているが、職員も大切に扱っている。 | ベッドやタンスは備え付けになっており、壁に家 族写真や日めくりカレンダーで作った兜を飾っ て、自分好みの部屋づくりをしている。位牌を持 ち込んでいる方もいる。全体的に必要な以上の持 ち込み品はなく、簡素で清潔な居室になってい る。居室担当職員は利用者や家族と相談しなが ら、本人に安心と安らぎが得られるよう居室の環 境づくりに努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している | できないことをできないと決めつけるのではな く、その可能性をなくさないよう配慮している。ま た、できない事よりも出来ることを多く探し、役割 の重要性や生きる喜びとは何かを考えながら取 り組んでいる。 | | |